

令和7年度 自己評価計画書

石川県立大聖寺実業高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
1	基本的な生活習慣の確立を基盤とし、生徒が資格取得等に挑戦することで自己肯定感を促進させ、自立した学習習慣の確立を図る。	① 本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	学年 教務 生徒指導 生徒会指導 保健管理	98%の生徒が自ら挨拶をしていると答えている。その内の4割程度が「だいたい」と答えており、今後も教育活動全体を通して挨拶指導を行っていく。 実習棟は整理整頓されているが、教室の方は十分ではない。さまざまな場面で5Sを意識した環境美化の指導を継続していく必要がある。	【成果指標】 生徒および教員が自ら積極的な挨拶を励行している。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒	
					【満足度指標】 学びの場および指導の場は整理整頓され、学習に相応しい環境となっている。	私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒	
		② スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	進路指導	肯定的な意見の割合は93%でA評価であったが、「実感している」と答えた生徒は25%に過ぎず、十分な成果が得られたと言い難い。生徒が主体的に学習し、基礎学力が向上したと実感できるように、指導方法の改善に取り組んでいく必要がある。	【満足度指標】 国語、数学、英語の基礎的内容を理解し、以前より基礎学力が向上している。	文章を読む力、内容を理解する力、考えを表現する力が向上したと感じる生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒アンケートを実施)		生徒	
		③ 集会やWeb等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	生徒指導 学年	「容儀」「携帯電話」や「違反行動」について、規範意識が薄い生徒が一部いる。今後も家庭と連携しながら、規則の必要性を説き、粘り強い指導が必要である。	【成果指標】 生徒自身が校則を主体的に守る意識が向上し、指導件数が昨年度より減少した。	昨年度と比べ、指導件数が A 20%以上減少 B 10%以上減少 C 10%未満減少 D 増加した	生徒指導課の指導件数で判断する。 (昨年度比較)	教員		

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
2	Society5.0時代に役立つAI・IoT教育や1人1台端末を効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、生徒の個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びを実践し、確かな学力を身に付けた地域に期待される人材を育成する。	① 学習意欲を喚起する授業の工夫と一人ひとりが主体的に取り組む学習指導を推進する。	教務	ICT機器を活用してはいるが、生徒の学力向上に関して十分な成果が得られていない。効果的な使用方法について工夫・改善し、学びの質の向上に繋げていく必要がある。	【努力指標】 生徒が主体的に参加する授業を目指し、授業改善に取り組んでいる。	1人1台端末の活用や探究活動を取り入れて、個に応じた学習が進められるよう授業の工夫を行っている教員の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業改善の状況、指導法を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員		
			教務 各学年 各教科	各自の授業改善に取り組んでいるが、生徒が主体的・協働的に活動する場面がまだ十分ではない。さらなる授業改善が必要である。	【努力指標】 授業改善に生かす目的を持って互見授業に参加した。	授業改善に生かす目的を持って、互見授業に参加した回数が、 A 6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (12月に教員アンケートを実施)			
		② 質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	各教科	さらに生徒が考える力を育成するために、授業改善に取り組んでいく必要がある。	【満足度指標】 根拠や理由を示して答えることで、生徒自身が学習内容について力がついたと感じている。	学習内容について、考える力がついたと感じる生徒および教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業改善の状況、指導法を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒	
		③ 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業科 商業科	資格取得は専門高校における職業教育の中核となる。生徒の資格取得が生徒の自信となることから、資格取得の指導に一層力を入れていく必要がある。	【成果指標】 工業科におけるジュニアマイスター認定数の状況、商業科における全商資格取得の状況を見る。	3年次にジュニアマイスター顕彰制度30点以上、全商1級合格5種目以上の生徒が合わせて A 10人以上 B 8人以上 C 6人以上 D 6人未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (年度末に集約し、判断する。)		生徒	

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
3	学校の教育活動に加え、外部と積極的につながることで、多様な見方・考え方を取り込み、生徒の将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる心豊かな人間性を涵養する。	① 生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会指導	昨年度の評価94%とほぼ変わらないが、「意欲的にできた」が31%から56%に増加し、生徒の積極性向上がみられた。今後も生徒が意欲を持って主体的に取り組める行事を検討していく必要がある。	【満足度指標】 自らの役割を見つけて積極的な行動により、責任を果たすことができている。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、行事の運営方法を検討する。 （12月に生徒アンケートを実施）		生徒	
		② ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	生徒会指導	奉仕の精神や郷土愛を育むためにも、積極的にボランティア活動への参加を勧める。その上で、地域の期待に応えつつ、生徒の自主性を鍛え、自己有用感の醸成に努めていく必要がある。	【成果指標】 地域のボランティア活動に積極的に参加している。	年間ボランティア活動に、2回以上参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 （12月に生徒アンケートを実施）		生徒	
		③ いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教育相談 生徒指導 学年	教員相互の情報交換により、事案に対して迅速かつ適切な対応ができた。SNSの情報発信が生徒間の問題に発展しないよう事前指導を継続していく必要がある。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、いじめや不登校の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、新たな指導方法を検討、実施する。 （7月と12月に教員アンケートを実施）	教員		
4	開かれた学校の観点からホームページやSNS等を活用し、本校における特徴的な教育活動の情報を積極的に発信する。	① 学校だより、学校Webページ、学校懇談会・見学会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	教務 工業科 商業科	学校Webページ以外に新聞やラジオで生徒の活動が紹介され、本校に対する関心が高まった。校内で開催する催しの他に、さらに、校外でアピールできる取り組みについて今後も検討していく必要がある。	【成果指標】 本校の教育活動についてよく理解できるよう情報発信する機会を設ける。	生徒・保護者・地域等に本校の魅力について理解を求める活動を行った回数が A 6回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	C・Dの場合、対策について検討する。 （新聞等に報道提供した回数で判断する）	教員		

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
5	危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対応できる学校組織を構築する。	① 登下校中も含めて、生徒が安全安心な学校生活ができるように、教員間で情報共有と連携を図る。	学年 生徒指導 生徒会指導	学校での教育活動全体を通して、安全指導と防災教育指導に取り組んでいる。しかし、不測の事態に対しての危機管理意識は十分ではない。	【努力指標】 日頃から危機管理意識を高め、不測の事態においても適切に対応できるように努めている。	危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対応できる学校組織となっていると感じる教員の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、対策を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員		
6	教職員のウェルビーイングを高めるために、校務の効率化・平準化を実現し、より効果的な教育活動を行う。	① 時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	教務 学年 生徒会指導 生徒指導 進路指導	「生徒と向き合う時間を十分確保している」と肯定的に答えた教員の割合が55%と昨年度より増加した。しかし、一部の教員に業務が集中するなど、改善の必要性が明らかになった。業務の平準化を図っていく必要がある。	【努力指標】 教員は生徒と向き合う時間を確保するよう努めている。	採点業務省力化ソフト等の活用で業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、対策を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員		
		② 若手教員とのOJTを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努めるとともに業務の可視化を進める。	教務 生徒会指導 生徒指導 進路指導	昨年度91%とある程度改善したが、業務を引き継ぐことを念頭とした対応を進めていかねばならない。そのために、無駄を削減し、本来の職務に専念できるよう意識改革し、業務の可視化に努めていく必要がある。	【努力指標】 次年度の担当者へ引き継ぐことを前提に、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合、新たな方法を検討、実施する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員		
		③ 教員1人ひとりの時間外勤務について実態を把握するとともに、時間外勤務を減少させるべく校務の効率化を行うとともに、年休の取りやすい職場環境を構築する。	教頭	昨年度、時間外勤務45時間以上の割合が23.3%と年々減少傾向にある。しかし、時間外勤務60時間以上の教員の割合が12.8%とある程度いる。校務の効率化・平準化を進め、時間外勤務の多い職員数の減少に取り組んでいく必要がある。	【努力指標】 教員一人ひとりが効率的な業務遂行に努め、前年度より時間外勤務を縮減する。	時間外勤務月45時間以上の教員の割合が年間で A 20%未満 B 25%未満 C 30%未満 D 30%以上	C・Dの場合、取組方法及び内容の見直しをする。 (毎月の勤務時間調査の集計結果から判断する)	教員		